

大分県農業信用基金協会



1 大分県の紹介

大分県は九州地方の北東部に位置する県で、その東西南北に広がる多様な地形が、美しい自然景観を生み出しています。

県土の7割を山地が占め、西部には九重連山、南部には祖母山・傾山がそびえ、平野部は北部の中津平野、中部の大分平野など限られた地域に分布。また、海岸部は、北部で瀬戸内海に面し、中部では豊後水道を隔てて四国地方に接しており、南部ではリアス式海岸が発達しており独特の海岸美を形成しています。

大分県は「日本一のおんせん県おおいた」をキャッチフレーズにしており、別府温泉や由布院温泉など、多くの温泉地があります。



全国4万社の
八幡様の総本宮

宇佐神宮

ります。源泉数（4,445か所）と湧出量（279,253リットル/分）はともに日本一です。温泉だけでなく、全国に4万社以上あると言われる八幡社の総本宮である宇佐神宮、神と仏を一体的に信仰する神仏習合文化の発祥の地ともいわれており、開運パワースポットとしても有名です。切り立った岩壁に仏や菩薩を彫刻した磨崖仏（まがいぶつ）は、全国でもその数や規模を誇り、なかでも臼杵石仏は国宝としても知られています。耶馬溪は「日本三大奇勝」の一つに数えられる景勝地で、特に紅葉の季節は絶景です。日田豆田町には江戸時代からの街並みが残るなど各所に観光スポットがあります。また2025年7月に大分市内と大分空港を結ぶ「ホーバークラフト」の定期便が16年ぶりに復活しました。船体を水面に浮かせながら走る水陸両用の船です。別府湾周遊便もお楽しみいただけます。

食の楽しみは、関あじ・関さばや大分ぶぐ、おおいた豊後牛、ブドウ、梨などの山海の幸。だんご汁、鶏めし、りゅうきゅう、地獄蒸し料理などの特色ある郷土料理。とり天、中津からあげ、日田焼きそばなどのソウルフード。様々な美味しいものが味わえます。

2 大分県の農業

本県は、標高0mから1,000m近くまで耕地が分布し、耕地面積の約70%が中山間地域に位置する起伏の多い地勢にあります。こうした地理的条件を活かし、米を中心に、野菜、果樹、花きといった園芸や肉用牛をはじめとした畜産など、多様な農畜産業が営まれています。

代表的な産品として、日本一の生産量を誇るかぼすや乾しいたけをはじめ、白ねぎ

やこねぎ、ピーマン、高糖度かんしょ（甘太くん）、肉用牛などが生産されています。大分県のオリジナルいちご「ベリーツ」は、年内収穫量が多く、厳寒期でも色づきがよいのが特徴で、甘みと酸味のバランスがよく、市場で高評価を得ています。「おおいた和牛」は全国的な認知度向上を図るためのリーディングブランドとして、首都圏等での販促活動などを展開しています。

また、県の北東部に位置し、瀬戸内海の南端に突き出した半島を中心とした国東半島宇佐地域は、世界農業遺産に認定されました。認定された農業システムは「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林

水産循環」です。特産のしいたけ栽培に使うクヌギは約15年のサイクルで再生し林が維持されます。クヌギ林が水を蓄え、そこからしみ出す水をいくつものため池でつなぎ効率的に農業に活用しています。



かぼす



原木しいたけ



甘太くん



白ネギ



ベリーツ



おおいた和牛

3 大分県農業信用基金協会の概要

当協会は、理事7名（うち常勤1名）、監事3名の役員10名。職員は16名で総務部、業務部（審査課、管理課）にて業務運営を行っています。



4 大分県農業信用基金協会の活動

審査業務においては、令和4年度から業務推進専任担当を設置し、債務保証の伸長と協会利用率の向上を重点課題と位置付け取り組んでいます。まず、農業資金については、融資機関でも融資伸長の重要性が再認識されていることから、各融資機関及び関係機関と連携し制度資金を中心に債務保証の伸長を行っています。生活資金については、住宅ローン、小口ローンとも他保証機関と競合しており、利用率の低下は協会の経営に大きな影響が出かねないため、全営業店舗へ出向き、融資・窓口・渉外など各

担当の業務に応じた研修を行い、意見交換、要望等を聞き取ることで協会利用の伸長を図っています。それによって、令和7年9月からの保証審査システム及び貸出システムとの連携も円滑に稼働することができました。

管理業務においては、延滞管理に重点を置き、JA等融資機関と連携・連絡を取りながら、個々の実情に応じた対応で農業者等の再建を促し、代位弁済の未然防止に努めています。